



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授
Yamaguchi Atsuko
東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に『干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさ—と危機』(東海大学出版)など。

Glover Atlas

ガンギエイ

Dipturus sp
画家 小田紫星

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜
Fishes of Southern
& Western Japan



【背面の図】

毎回解説していただいている山口敦子教授の専門の一つでもあるエイの一種「ガンギエイ」がついに登場しました。

「ガンギエイは北海道以南から中国沿岸にかけての水深三三〇mまでの砂泥底に分布する軟骨魚類の仲間です。最大で全長七十九cmに達します。長崎をはじめ九州ではスエイやカスベなどの名で知られています。ガンギエイとは、尾部に向かって配列された多くの棘を、雁木(雁の行列のようにギザギザした形のもの)に見立てたものです。古い資料によると、北陸では当時の時代背景を表して、「ゴンベイ(権兵衛、大正時代頃まで流行した幼児の髪型)“と呼んだものだそうです。今も変わらないう「カラカイ(カラゲイ)“という東北地方等での呼び名は「韓鉤エイ(鋭い棘を持つエイ)“の縮転語です。

日本だけでも三十二種ものガンギエイ科魚類が報告されており、個体差や成長差が大きい上に分類形質が少ないため、専門家でも一見して種を見分けるのは難しいです。種を誤ったまま研究報告がなされることもままあり、この種の理解をいっそう混乱させています。ガンギエイの学名 *Dipturus kuangtungensis* には検討を要することがわかったため、「こいつは *Dipturus* sp.(ガンギエイ属の一種)としていきます」。

ユーモラスな体形

「グラバー図譜ではたいいてい魚の左側面が描かれているのですが、エイではご覧のように背面と腹面の両面が描かれています。腹面の図(左下)を見ると、大きな頭に口がなくて目があり、小さな手足もついているようで、何だかヒトのように見えませんか?水族館では「笑ってるみたいで可愛い〜!」と人気です」
確かに、ゆるキャラのような愛嬌のある目元です。

「いえいえ、多くの方が目と勘違いする口の上にあるものは、実は鼻です。手足のように見えるのは、左右の腹鰭がそれぞれ二又したものです。さて、背面の図(P20)をご覧ください。こちらに本物の黒い小さな二つの瞳が描かれています」。

「サメやエイの雄は、腹鰭の内側にその一部が変化してできた交尾器を備えています。このエイ、外見から判断するに未熟な雄です。左右それぞれ腹鰭の内側にとても小さな交尾器が二つありますね。ガンギエイは長径一〇cmほどの卵殻に包まれた受精卵を産みます。この卵殻、はじめは透け感のある美しい鉛色で、次第に黒く硬くなっていきます。一説には年間百個ほどの卵を産むとい

ますが、一年でいったい何個の卵を産み、どのくらいで孵化するのかなど、その生態の多くは未だ謎です。今から五十年以上も前のこと、軟骨魚類で初めて年齢査定を試みられたのが、東シナ海産のガンギエイ類でした。当時の先駆的な研究は世界的に有名になり、現在の研究の礎となりました。その後、私たちの研究でガンギエイの寿命が十五年以上に及ぶことがわかりました」。

懐かしのカスベの味

「アイヌ語でガンギエイのことをカスベといっています。美味しくない魚のカス、だからカスベなのだという説もありますが、不味くも臭くもありません。硬い骨はなく、コラーゲンが豊富で、大きければブルツ、トロツとした食感で驚きの美味しさ。長崎ではエイヒレに加工されること



【腹面の図】

が多いのですが、メガネカスベやドブカスベなど様々なカスベ類の漁獲量が多い北海道や東北・北陸地方などでは煮物やスタ、煮凝りなどで食されてきました。

秋田の土崎港曳山祭りは別名カスベ祭りと呼ばれます。秋田の郷土料理カスベ煮は主にお盆の時期に食べるご馳走です。そして、カラカイは山形県の郷土料理。山形生まれの児童文学者・故国分一太郎さんは「山国なのに、ある海のあるものを一年中にわたって食べる、これがその土地の名物とさえなつて今に伝わっていることも珍しくない。自分の故郷で言えばカラカイが該当する」という趣

旨のことを書き残しています。なんでもない日にも「カラカイでも煮て食うか」と、固く干したエイの肉を数日水に戻してから黒砂糖や醤油でコトコト煮てこしらえたといわれています。最近では漁獲量が減ったためカスベの値段は高騰し、なかなか手に入らなくなっているそうです。歴史とともにある伝統の味を絶やすことなく次へ伝えていきたいものです」。

エイは実は多くの土地で昔から食べられてきた、日本人になじみの魚なのです。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。
<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>